

平成30年度

郷土調査部研究発表会要項



『久米の城山公園から見た霧』



『西尾実が編集した教科書』

- 期日 平成31年1月26日(土)
- 会場 鼎文化センター

公益社団法人 下伊那教育会 郷土調査部



平成 30 年度

郷土調査部研究発表会要項



発表会日程

一 開会行事 (13:00～13:10)

- (1) 開会の言葉 (2) 主催者挨拶 (3) 諸連絡

二 研究発表

..... 第一部 [人文関係] (13:10～15:10)

- (1) 西尾実研究委員会
『西尾実の教科書に学ぶ ～通信文の授業を通して～』
旭ヶ丘中学校 下井 慈 3
- (2) 歴史委員会
『日露戦争と下伊那の学校』
清内路小学校 竹村 雄次 6
- (3) 資料委員会
『今牧 久先生が沈壽官(チン・ジュカン)講演記録「陶房雑話」を通して伝えたかったこと』
高森中学校 小林 孝宏 9
- (4) 考古学委員会
『下伊那教育会館参考館 4号室収蔵の古墳時代の甗 ～人面墨書土器の謎に迫る～』
大鹿中学校 岡庭 有沙 12
- (5) 菱田春草研究委員会
『鎌倉時代闘牛の図と菱田春草の美術学校時代』
旭ヶ丘中学校 幸西 藍 15
- (6) 地理委員会
『下伊那におけるコンビニエンスストアの立地展開』
山本小学校 牧野内 澄登 18

休 憩 (15:10～15:20)

..... 第二部 [自然関係] (15:20～16:40)

- (7) 気象委員会
『飯田市全体を包み込む霧の発生時の様子と気象条件等とのかかわりについて』
飯田西中学校 渡邊 隼人 21
- (8) 陸水委員会
『下伊那のウチダザリガニと環境』
阿智中学校 村上 賢英 24
- (9) 生物委員会
『不安定な環境に適応してきた天竜川のチドリ ～この20年～』
高森南小学校 佐々木 剛彦 27
- (10) 地質委員会
『九州火山の超巨大噴火による火山灰の給源の特定』
喬木第一小学校 桐生 和樹 30

三 開会行事 (16:40～16:45)

- (1) 閉会の言葉 (2) 諸連絡

は じ め に

平成30年度の郷土調査部研究発表会は70回目を迎えます。昭和24年に第1回が開催され、今年は平成最後の発表会となります。郷土調査部の歴史と研究は新しい時代へと続いていきます。

私は陸水委員会に所属して7年になります。私が研究を進める上で改めて大切にしているのは、2015年のノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士の研究への姿勢です。「自分がやったことは大体失敗してきた。ときにはびっくりするくらい、うまく行くことがある。それを味わうと何回失敗しても怖くない。」と話されています。ご存じのように大村博士は、膨大な土の中から微生物が作る化学物質の研究を進め、医薬、動物薬、研究用試薬を実用化しています。自然界の仕組みを解明していくことは並大抵の努力ではありません。季節や天気などその時の自然現象が大きく影響したり、短い期間の調査研究だけではなかなか結論を導き出すことは困難です。しかし、なかなか思うような結果が得られないとしてもその研究に没頭していくエネルギーは何なのでしょう。自然界の仕組みは一個人が簡単に解明などできるはずがありません。地道な努力は言うまでもありませんが、自分が推論して取り組んだ調査や研究が的中したときの喜びではないでしょうか。その喜びが、その研究に魅せられ次への大きな原動力になっていきます。

昨年度発表会に参加された方から「とても面白く、興味深い内容ばかりです。飯田下伊那が地元であっても、自分が学生の頃は知らないことばかりだったんだと、毎年この発表で気づかされます。毎回、ご用意いただく要項は実家へ持っていき、話題になっています。」「私は県外出身者で、下伊那に住んで18年になりますが、地域への愛着や思い入れが生まれてきました。昔はさほど興味を感じなかったことも、こうして長く暮らしてみると馴染みの地名や行ったことある場所、知っている人物やできごとなど、発表の各所にそれらが出てきて、どの発表もわくわくした気持ちで聴講することができました。どの分野も丹念に調査され、聴く者を惹きつける工夫がなされ、素晴らしい時間となりました。珠玉の発表本当にありがとうございました。来年もぜひ参加したいです。」などの感想をいただきました。このような多くの皆さんからの励ましの声が、郷土調査部の研究を後押ししていただき、各委員会では今年度も調査・研究を進めてきました。

郷土調査部の先生方は、日々の校務の中にあっても、自らの疑問を解明したいという強い思いのもと、その研究に魅せられ、探究を進めています。学ぶことへの労苦を惜しまず、自らの研究に打ち込む先生の姿勢は、日々の授業での子どもたちの向学心の高まりにつながるはずです。また、郷土調査部の研究は、郷土の文化や自然を知り、調査・研究の方法を学び、私たちの専門性を高める下伊那教育会の伝統あるものです。郷土調査部には、人文分野・自然分野について研究する10の委員会があり、各委員会とも毎年テーマを設定し研究を推進しています。各委員会では、年8回の委員会、夏休みや休日を使った現地調査、継続的なデータ収集、委員各自での文献や資料に当たる取り組みなどを行い研究を深めています。

さて、今年度は、隔年発表の資料委員会と合わせて、10委員会で発表させていただきます。研究には専門的な深まりを追究しましたが、参加者の皆さんに下伊那の人文や自然に興味関心を持っていただくために発表内容のわかりやすさにも重点を置き進めて参りました。郷土調査部の発表会を通して、下伊那の文化や自然の素晴らしさを実感していただければと思います。

最後になりましたが、平成30年度の研究発表会が多くの皆様方のご参加を得て開催できますことに感謝いたします。また、研究発表会を開催するにあたり、ご支援・ご協力いただいた全ての皆様、研究発表のために尽力された郷土調査部各委員会の皆様に御礼申し上げます。

平成31年1月

下伊那教育会郷土調査部推進委員長 仲村信治